

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所に掲示しており、事業所理念のもとユニット目標を毎年定め、実践に努めている。	開設時に職員と一緒に事業所独自の理念を検討し、理念の実践ができるよう事務所に理念を掲示するとともに、職員と会議にて年間目標の検討を行ったり、個人目標の設定・評価も行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、現在地域交流は自粛している。	職員は町内の海岸清掃に参加したり、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年ではご利用者と一緒に出身地域のお祭りに参加したり、祭りの際は地域の子供神輿に寄ってもらうなど、地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、今年度も自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス対策のため、運営推進会議は書面にて行い、意見、要望等は意見書にて頂いている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面開催が多くなっていますが、運営推進会議は事業所の事故報告、ヒヤリハットの報告、状況報告を行い、ご家族、区長、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター職員などから書面にてご意見を頂き、頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当職員の方に参加頂き、報告や相談、また、ご意見等を頂いている。	市の担当者や地域包括支援センター職員には運営推進会議の際もアドバイスを頂いているほか、制度等不明な点についても確認するなど、連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回検討委員会を開き、委員会にて話し合った内容を施設内会議にて資料配布とともに落とし込んでいる。	定期的に身体拘束に関する検討会を行っており、玄関の施錠も夜間のみとし、事業所にて身体拘束についての研修も行い職員へ周知徹底をし、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内マニュアルをもとに勉強会を行っており、1月に研修会を開く計画をしている。	事業所にて虐待防止についての社内マニュアルをもとに勉強会も実施しており、言葉の遣い方についても気付いた時は指導するなど、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はおらず、社内マニュアル、社内研修をもとに理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は説明の都度、確認を行い、疑問等ないか伺い、説明に理解を頂いた上でサイン、押印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際に相談等しやすいよう、管理者や計画作成担当者が出勤している際は挨拶に伺うなど、雰囲気作りに努めている。また、面会禁止期間は電話や日用品を持ってきて下さった際に対応している。	玄関に意見箱を設置しているほか、ご家族には面会時のやりとりにて意見を確認しています。また、運営推進会議でもご家族から書面にてご意見を頂いており、意見や要望を確認する機会としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度事業所会議を行い、意見交換を行っている。また、ユニットごとにグループLINEを作成しており、都度LINEにて意見交換を行っている。	日常の業務の中でのやりとりのほか、毎月の職員会議の場で職員からの意見や提案を確認しています。また、管理者は職員との個人面談を行う機会も設け、個人の要望や悩みを確認しています。	職員会議録のヒヤリハットの内容でご利用者の名前に記載モレがありましたので、今後ミスが無いように改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回個別面談を行っている。また、管理者も現場に入り、課題点の把握に努め、職員との意見交換や相談を聞きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため糸魚川全体での会議は行えていないため、要点をまとめた資料を配布し、伝達研修を行っている。毎月の事業所にて計画作成担当者主導のもと認知症研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の部門会議を毎月開催し、意見交換を行っている。地域ネットワーク会議はコロナ禍のため、昨年度は1度のみ、今年度は開催されていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査をもとに情報の共有を行い、本人との面談にて生活歴、要望の確認をし、本人の力を発揮できるよう調整をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査と担当ケアマネからの情報提供をもとに、ご家族の現状や思い、介護能力などを面会や電話にて確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前までのサービス利用状況を把握し、必要時系列の他サービスやグループホームへと紹介、連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能の活用や敬う気持ち、本人の置かれている状況を理解し、会議や研修等で話し合いさらに理解を深められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて近況の報告を行い、リモート面会や電話、手紙のやり取りで、お互いの気持ちの交流機会を提供している。	事業所からも定期的に事業所広報及び個別のお手紙を送付しご利用者の生活の様子をお知らせしています。また、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会の制限の中で難しい状況ではあるが、個別ドライブや地域情報、メディアの活用で故郷を感じてもらっている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で制限していますが、リモートにてご家族と面会したり、個別ドライブに出かけるご利用者もいるなど、これまでの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流しやすい環境の整備や、共通の作業、活動の仲介などで対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があった際など、有効となる情報の提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員と暮らしの情報シートを用いて、本人の意向、生活歴などの聞き取りをし、職員間で共有している。	日々のケアの中でのご利用者との会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員間で共有するようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、本人、家族、担当ケアマネから情報を聞き取り、アセスメントシートに記載、共有している。	ご本人やご家族からの聞き取りにて、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。定期的なアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録にて確認し、申し送りや活動写真の活用で、日々の取り組みの様子を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族それぞれの意向の確認と、担当者の想いや、ユニット職員の気付き、本人の可能性を踏まえて介護計画を作成、共有している。	担当介護職員がご利用者の状況を確認し、毎月ケアプランの評価を行なっています。ご利用者の状態変化や認定期間に合わせ、介護計画の検討の機会を設けています。	介護計画書の同意日が記載されていない方や、モニタリングシートにチェックモレがある方もいましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引き継ぎ簿、介護記録にて職員間で共有している。また、ユニットノート、ユニットLINEにて気づき、工夫を検討している。月のモニタリングで評価も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市への手続き、緊急の受診、コロナ禍における買い物代行、系列のサービスとの協力などニーズに対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とお祭りへの参加や、地区での防災訓練、子供たちとの関わり、買い物同行などのやりたいこと、実施していたことがコロナ禍により制限され、専門医の受診、また、一時期馴染みの理容店の利用のみ行えた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては、入居時に提携の協力医の説明を行い、かかりつけ医の希望確認を行っている。その他の医科に関しては元々のかかりつけ医を継続利用して頂いている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、必要に応じ職員も受診に同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた医療連携表を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤専従の看護師が週に3日出勤しており、情報共有を行っている。また、24時間の連絡体制のもと、必要時連絡、相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院、家族と連絡を取り合い、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の指針に関しては、契約時に書類にて説明、確認を行っており、状態変化があった際に必要に応じ、意向の再確認を行っている。また、協力医には往診時や必要時に連絡、相談を行っている。	契約時に事業所の方針を伝え、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、事業所のできることを伝え、主治医とも連携し支援していきたいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度全職員が救命救急講習を受講している。また、今年度は職員1名が応急手当普及員の資格を取得した。	社内でも年に1度は全職員を対象に普通救命講習も行っており、職員が急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練、1回の夜間参集訓練を行い、有事に備え訓練を行っている。	夜間の火災や津波を地震による想定した避難訓練を行なっています。また、緊急連絡網を使用した訓練も行ったり、非常用の食品や水も確保され、期限の確認もされています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時に肖像権を書面にて意向確認し、同意の得られない方の使用はしていない。また、居室に入る際や、トイレ介助の際などは必ずノックをし、同意を得る等、プライバシーへの配慮を行っている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報の写真の掲載についても契約の際に確認を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	軽作業を行う際や服を選ぶ際など、本人の意思を尊重し、自己決定ができるようコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等の業務で定められるものは必要最低限に抑え、利用者のペースを最優先として過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日用品は個々の利用者、家族にそれぞれ用意して頂き、その人らしい身だしなみやおしゃれの継続に努めている。また髭剃り等も適宜声かけをし、服装は季節感に合わせたアドバイスを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いについては事前にアセスメントで把握を行い、食事の都度食べ具合や個々の意見を聞き、嗜好の把握を随時行っている。また、毎週日曜日の夕飯はリクエストメニューを提供している。	ご利用者にもできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。ご利用者の要望に合わせたメニューを提供したり、近隣のお店から出前を頼んだりして、ご利用者に食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎回記録しており、あまり食事が進まない場合は体調の確認や必要時補食を提供している。また、本人の状態にあった食事形態を利用前に確認し、現在は無いが、必要な方には自助具等も使用してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には各々の利用者に自身で行って頂き、必要な方には口腔ケア後の確認や洗浄補助を行っている。義歯は夕食後の口腔ケア後に預かり、洗浄剤にて洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着は残存機能に適しているものを着用して頂いており、機能の低下に伴い、随時介護用下着類の導入検討や移行を行っている。排泄パターンをもとに自立した排泄動作ができるよう声掛けをしている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに排便の有無やリズムを把握し、必要時下剤や座薬を医師の指示のもと使用している。便秘対策として軽運動や水分の促しを行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週2日間入浴日を設定しているが、その日の体調や気分、外出等予定を考慮し、柔軟な対応ができるよう心掛けている。	事業所には一般の浴槽と特殊浴槽があり、ご利用者の状態に合わせて入浴支援できるようになっています。ご利用者の要望に合わせて同性介助での支援をしたり、入浴を嫌がる方にも、声かけ方法等を工夫し、入浴していただけるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は定めておらず、なるべく個々の生活リズムにて休んで頂いている。日々の体操も任意の参加であり、その日の気分や体調にて参加や休息を選んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が主となり、利用者のお薬ファイルを作成しており、職員がいつでも閲覧できるようにしている。また、薬や対応に変更があった際は随時ノートに記入し、周知をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や軽作業は利用者と一緒にしている。また、本人様の趣味を行って頂けるよう機会の提供を行っている。コロナ禍においては、室内から出られないストレスが溜まらないよう、少人数ドライブ等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に伴い、受診以外での外出ができず、個別や少人数でのドライブや散歩、日光浴などで、毎日少しでも外に出られる機会の提供に努めている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、できる範囲で天候や状況を見ながらご利用者の意向に合わせた個別外出やご家族の協力も得てご自宅に外出される方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社方針として、金銭の管理は行っていない。訪問散髪等必要時は当日もしくは前日にお預かりし、預かった日の内に清算をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の方には事業所の電話を使用して頂いており、本人宛にかかってきた電話には本人に通話して頂いている。また、コロナ禍により、面会の代わりに手紙のやり取りを行う利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる掲示物や利用者の作品を展示し、生活感や季節感の感じられるよう努めており、玄関ではめだかの飼育を利用者で行っている。夏季はグリーンカーテン、冬季はこたつやストーブを使用し、季節を感じて頂いている。	居間にはお仏壇、神棚、床の間もあり、家庭の雰囲気が大切にされています。季節のお花を飾ったり、ご利用者の作品を飾るなどし、居心地の良い環境づくりがされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時間等最低限に定めている時間以外は個人のペースで過ごして頂いており、共有空間である居間では思い思いの時間を過ごして頂き、様子を見ながら、時には職員が仲介を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの家具や寝具、居間に椅子等、ご本人の生活スタイルに合わせた物を使用して頂いている。また、居室に写真やテレビなどを持参するなど、居心地の良い空間作りに努めている。	全ての居室が全面畳み敷きになっており、居室にはご利用者が使い慣れたものを自宅から持ち込んでもらっています。また、ご家族との写真やカレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、できる軽作業への参加や、必要な方には歩行補助具を使って歩行練習をして頂くなど、できるだけ自身の力を活かした生活を送って頂いている。		

**V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				